



佐久大学看護学部 段階的DP学生自己評価の結果

佐久大学看護学部の学生の卒業時到達目標(DP:ディプロマ・ポリシー)は、全部で7項目あります。本学では、2021年度より段階的DPを採用しており、学年が上がるにつれてより高度な目標を設定しています。学生は、各学期末に自己評価を行い、学修をふりかえることで目標達成を目指します。

卒業時到達目標:DP(ディプロマ・ポリシー)

1. 豊かな人間性と人間理解を支える幅広い教養を身につけている
2. 自律的に学習し続ける態度を身につけている
3. 生命を尊重し擁護する責任と役割を自覚することができる
4. 看護学の基本的知識と技術を活用し実践の力へと高める努力ができています
5. 国内外の地域特性と文化的多様性を理解し受け入れ貢献する態度を身につけている
6. 対人関係の基本として意見や考え・感情を受け取り合うことができる
7. 多職種との協働において看護職者としての役割りを自覚し行動できている

今回は、地域の健康と暮らしを支える看護職者に求められる「多職種と協働できる力」に着目し、「7. 多職種との協働において看護職者としての役割りを自覚し行動できている」について、現4年次生の3年間の成長をまとめました。また、自己評価したことでの「気づき」については、各学年の自由記載から抜粋しました。(2023年度末の結果より)

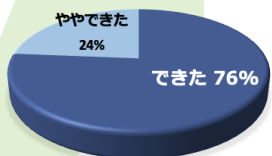
段階的DP学生自己評価の結果

3年次では、全員が「できた」「ややできた」と回答していた。

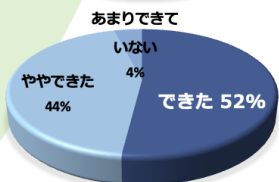
卒業後
看護師・保健師

4年次(最終学年)
チーム医療における看護の役割が考えられる

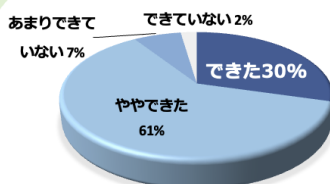
3年次
看護実践を通して、保健医療福祉の場にかかわる職種の役割の実際を知る



2年次
保健医療福祉における多職種連携・協働の方法を知る



1年次
保健医療福祉の場、関連施設で働く職種を知る



各学年の気づき

【3年次生】

実習では、看護技術だけでなく、チームでの連携やコミュニケーション能力が向上したと感じた。領域別実習を通して多様な広い視野から看護や関係構築など学ぶことができた。

【2年次生】

ただ学習や実習をするのではなく、何をどのように学ぶか、何を身につけるか気づかされた。

【1年次生】

入学時と比べて、格段に看護師へ向けての一步を踏み出せているし、何より自分でもこんな一面がある、こんなことができると驚いた事が多かった。一年生の実習で他の地域に暮らす専門職の方々の現状や課題を知ることとはとても刺激を得た。また、教室での授業でも明確な目標を立てるきっかけになったと思う。

他者との繋がりや自己の振り返りなどに関してさらに自分の中で高めていきたいと感じた。

学生は自己評価することで自身の課題に気づき、次のステップを踏み出します。教員は、学生を全力で支えます。